

歌舞伎と役者

江戸時代に生まれた演劇の1つが歌舞伎だ。現代では日本を代表する芸術として、海外でも人気の歌舞伎は、当時は、町人たちの最大の楽しみだった。

〈江戸っ子は芝居好き〉

歌舞伎は、1603(慶長8)年に、出雲国(現・島根県)の阿国という女性が、京都ではじめてとされている。そのあと、歌舞伎は人気となり、ゆうふく人はよい席を予約して、飲んだり食べたりしながら見物をし、町人の女性ファンは、朝早くからよそ行きの着物で着かざってでかけた。

中央区の芝居小屋は大人気

中央区には、中村座、市村座、山村座、森田座(のちに守田座)の4つの芝居小屋があった。1714(正徳4)年に山村座がなくなってからは、江戸三座といわれた。新年に人気の役者がそろって顔見世興行には、大ぜいの人がつめかけた。

中村座の前のにぎわい



今日のお芝居の楽しみにしてたの。

でも、1842(天保13)年、三座は浅草猿若町に移されちゃうのね。

ほんと、つまらなくなるわあ。

でも、歌舞伎はまた中央区に戻ってくるよ。

そうそう。1889(明治22)年に歌舞伎座ができるの。



うわー、すごい！満員だ。



7代目市川團十郎に、5代目松本幸四郎もいるよ！

中村座で上演された正月の舞台

歌舞伎が上演された芝居小屋

山村座
1642(寛永19)年に、木挽町にできた。当時は、中村座、市村座、森田座と共に、江戸四座といわれたが、事件が起こってなくなった。

中村座
1624(寛永元年)、江戸中橋の南側辺りにできた芝居小屋。そこが江戸歌舞伎の発祥の地といわれている。1651(慶安4)年に、この界町に移ってきた。

市村座
1634(寛永11)年、界町にできた芝居小屋。

森田座
1660(万治3)年、木挽町にできた芝居小屋。のちに守田座と改名。1872(明治5)年、移転先の浅草から新富町に移り、新富座となる(→p.94)。

江戸三座の移転
江戸三座とは、江戸幕府が歌舞伎の上演を認めた3つの芝居小屋のこと。1842(天保13)年に天保の改革により、浅草猿若町に移転させられた(→p.65)。

歌舞伎役者は、アイドルだった!!

当時、人気の歌舞伎役者の髪型や衣裳、帯の結び方などが話題をよび、流行になった。上演されたおどりや謡を習って、役者のまねをする人たちもいたほどだった。



人気だった役者絵
人気役者をえがいた役者絵は、現在のアイドルのポスターのようなもので、よく売れた。

中村座の楽屋のようす
衣裳を着がえる役者や化粧をする役者、食事をしている役者など、にぎやかな楽屋裏がえがかれている。



初代市川團十郎と「荒事」

元禄年間(1688~1704)の江戸では、初代市川團十郎が演じる、人間ばなれした力をもった主人公が、弱い者を助ける芝居に人気があった。この芝居は、團十郎の迫力ある立ち回りから「荒事」とよばれる。



初代市川團十郎(1660~1704)
「荒事」を発明した、江戸の代表的な人気役者だった。

世間をさわがせたお芝居見物「絵島生島事件」

大奥(→p.18)の女中・絵島は、芝居見物の帰りに、山村座に出演する人気役者・生島新五郎と、芝居茶屋の2階でこっそり会った。このことが大問題になり、2人はばつを受けた。しかし、本当に2人が会ったかどうか、実はわかっていない。

この事件が原因で、山村座はお取りつぶしにあうんだよ。



芝居茶屋の2階で会う絵島(右)と生島(左)。絵島は当時の将軍家継の母に仕える女中だった。

